

フレッチャーによるフィルムヴェインのフレッチング

SWV を代表とする修正力の高いフィルムヴェインが使われてから、かなりの時間が経ちましたが、色々なアーチャーのアローを見せていただいてきれいに等間隔にフレッチングされているものはあまり多くありません。

ほとんどの方がラインを引きその上に手貼りというパターンで加工されているようなのですが、どうしてもばらつきが生じてしまうようです。

そこで少しでも精度高くフィルムヴェインを接着する方法を考えてみました。

ほとんどのフィルムヴェインはアローとの接触面がわずかにカールしているのです。そこに着目。

それを利用してフレッチャーできれいに貼る方法を考えてみました。

フィルムヴェインの接着は、両面テープを使うので接着剤（グルー）と異なり、ヴェインとアローシャフトの接地状態を長時間押さえ込んでおく必要はありません。

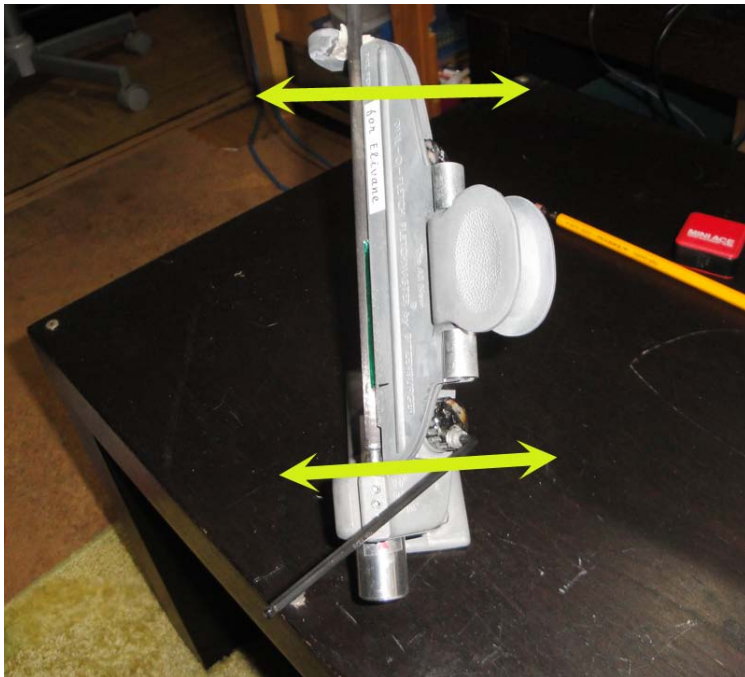
それを逆手に取れば、両面テープを介してヴェインとアローシャフトを一瞬だけ圧着すればそれで済むはずですが。

そこでフレッチャーのピッチ調整を極端に左右に動かして試してみました。

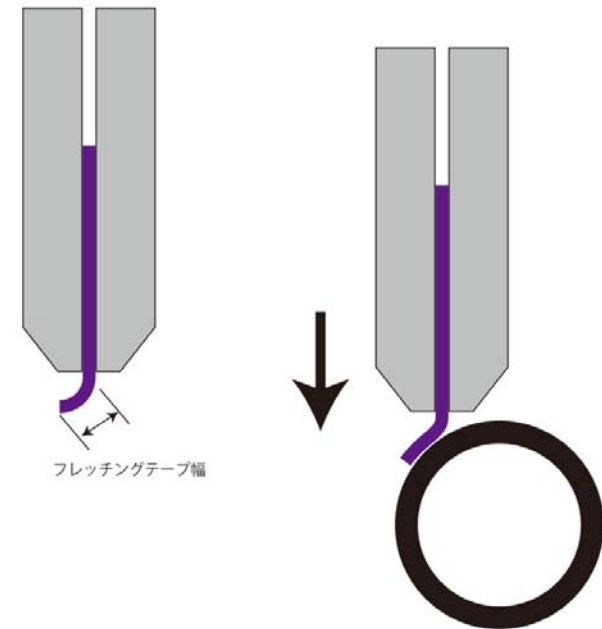
図解すると右図のようになります。

上が右ピッチのヴェイン用でピッチを前後とも目いっぱい右に、そして下が左用で逆方向です。

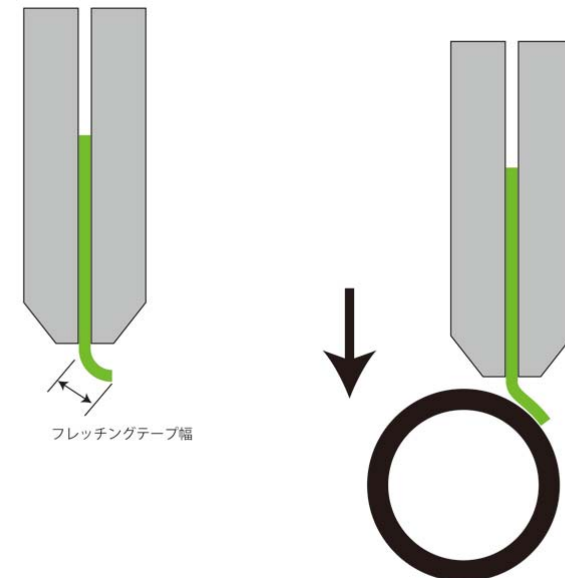
左用のほうがフレッチャー本体との干渉によって扱いにくい面があるのですが、実用レベルではOKでした。



RH の場合

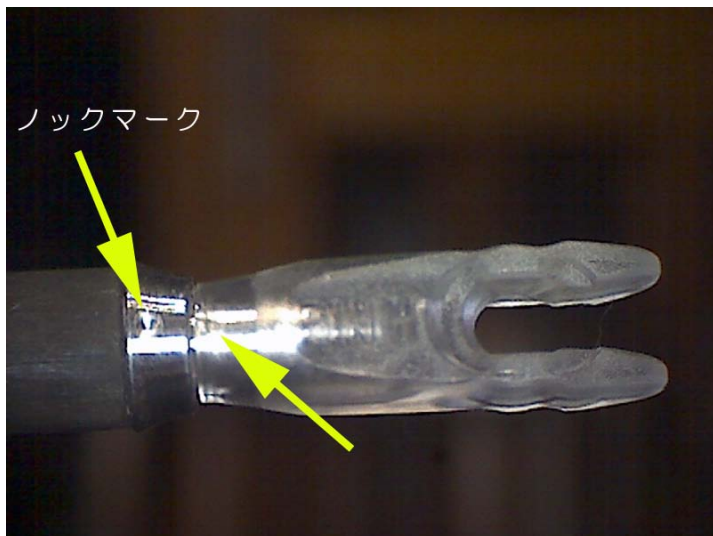


LH の場合



コストや加工は必要とせず、単にピッチ調整をするだけのことなので試してみることをお勧めします。
ラインをどうしても引きたい方はそのままフレッチャーのエッジを利用してラインを引くこともできますので併用が可能です。

この方法で重要なのは、ノックの取り付け角度がいつも同じになるような工夫が必要なこと、例えばシャフトやノックピンに位置マークをつけておくことが必要です。そうしないと1枚だけ貼りかえるときに、等間隔にフレッチングできなくなる率が高いからです。(3枚いっぺんに交換する場合にはこの限りではありませんが)



写真はノックピンにマークを刻印してある例です。
マークは何でも構いません。

☆ポイント

ヴェインをクランプに挟んだ時にテープの糊代部分は平行にしておく必要があります。
ここをいい加減にすると、フレッチングは等間隔になってもピッチがまちまちになってしまい精度を損ないます。

